

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102518
法人名	医療法人春風会
事業所名	グループホームはるかぜ荒田
所在地	鹿児島市下荒田2丁目39-1 (電話) 099-812-3866
自己評価作成日	平成31年3月6日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●H13年10月、ホーム開設。市の中心部に位置しており、国道225線に近く、バス、電車等の交通機関に利便性が高いのでご家族の方にも訪問しやすい環境にあり、又、閑静な住宅街であるため、騒音もなく穏やかな時の中で入居者は過ごされている。

●有料老人ホーム、居宅支援事業所が併設されている為、防災訓練、折りに触れ、運営推進会議等で交流する機会もあり、情報交換できている。
地域の子供達ににぎやかに集う「古田ヶ浜公園」への散歩などで気分転換を図り、地域での催し等にも参加、交流しつつ、地域に開かれたホームづくりを目指しており、H29年6月、地域住民、近隣の他福祉施設等との防災連絡ネットワークを立ち上げ、「共助」での相互の協力及び連携を強化できるように目指している。

●歩行力の維持の為、下肢筋力訓練の強化など、リハビリ訓練に取り組んでおり、協力医療機関の田上記念病院を始めとして、緊急時には、近医も多数あり、日頃の健康管理から医療連携を重視、促進し安心してホームで過ごせるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニット出入り口には、面会簿や意見箱などが置かれ、山吹や山桜の生花が活けてあり四季を感じさせる。壁には、運営推進会議の議事録が見やすく掲示されており、記録物や利用者ごとのアルバムが閲覧しやすいよう配置されている。家族の面会時に「面会時何でも連絡帳」に意見や要望などを記入してもらっている。出された意見などは、サービスに活かしたり業務の見直しをするなど活用されている。また、業務に必要な物品などよく整理整頓されている。

最期まで経口摂取が可能になるよう、「口腔ケアは朝から始まる」をモットーにしており、口腔清潔に熱心に取り組んでいる。家族の中には、週2回、食事介助に来られる息子さんもおられる。事業所は必要に応じて、訪問歯科診療を受けられる体制があり、職員は口腔内環境を整えることは、心身の機能維持や認知症の予防に密接に繋がっていることを認識しケアに取り組んでいる。

地域は防災に対する意識が高く、地域防災連絡ネットワークを組織化し事業所も平成31年度から、「水防法避難訓練を実施」予定である。飲料水や食料品、懐中電灯、拡声器、利用者や職員のヘルメットなどの備蓄は、1階フロアに保管され、毎月、「避難の日」を設けて自己点検、全職員でシュミレーションするなどして防災意識を高め、特に津波に対処できるよう準備している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝の業務引継ぎ・朝礼時、2ユニットのスタッフで、理念の唱和を行い、1日のスタートから業務の中で意識づけを行い、理念を実践できるように努めている。	理念は、共有スペースに掲示、パンフレットに掲載され、朝礼後唱和し認識の共有を図っている。また、職員全員で話し合い毎年度の理念に沿った目標を決め達成に向けて取り組むとともに、職員個々の取り組み目標もあり質の高いケアの実践を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの年間行事、催しと地域の行事のすり合わせを行い、できる状況で、相互に交流できるように努めている。	自治会に加入し、管理者はゴミ置き場や公園などの清掃活動、総会への出席、防災連絡ネットワークの一員として活動している。また、小・中学生交流や職場体験、ホーム行事に地域のボランティアを受け入れ、近隣の散歩や買い物支援を通じて保育園児や地域住民と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の催しなどは、積極的に入居者、スタッフも参加を行い、運営推進会議では、困りごと、ホーム活動状況を報告して理解していただけるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	凡そ2ヶ月毎の会議の中でホームの現状、活動報告を行い、又自己評価、外部評価、実地指導の結果などご家族へもお伝えして要望等について伺いサービス向上に繋げられるように努めている。	会議は、防災訓練やクリスマス・忘年会などと同時開催しており、地域の方や多くの家族の参加があり、ホームの取り組みや利用者の状況など情報共有の場になっている。また、会議の必要性を重要事項説明書に掲載したり、開催後の議事録をユニット受付に掲示して注意喚起し会議の内容を理解してもらい家族に参加を促している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿あんしん相談センター職員へ運営推進会議に参加を依頼しホームとの連携が深められるように努めており市職員による相談派遣員を毎年依頼している。	市担当者や地域包括支援センター職員とは、運営推進会議への参加や介護保険の事務手続き、入所や困難事例の相談、利用者家族の苦情相談などについて意見やアドバイスなどをもらうなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職場会議の中で身体拘束委員会を中心に勉強会を行い、リスクのある事案について提出し全スタッフで検討、評価を行い振り返りながら身体拘束のないケアの共有を目指しており、又、言葉によるスピーチロックにも留意している。	身体拘束委員会があり、毎月会議を開催している。昨年、指針の整備を行い、検討委員会の結果については議事録を閲覧するなど全職員に周知徹底している。また、研修についても定期的実施されており、離床センサーは漫然と使用することがないよう活用を定期的に検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職場会議の中で高齢者虐待防止法について勉強会をして、虐待がみすごされないように情報を共有しており職員が相互に注意し合える環境づくり意識づくりを目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修・外部研修により権利擁護に関する制度について学ぶ機会を増やし、職員が専門的な知識が持てるように努めている。該当する事案に対してはご家族にお勧めする事例もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、利用契約書及び重要事項説明書をもとに時間を取り具体的にわかり易い表現、言葉を用いて説明してご家族が納得して同意されるように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日々の生活の中での会話や表情、仕草等から汲み取りながら、ご家族には面会、家族会から気軽に意見や要望を出して頂ける雰囲気づくりを心がけている。	年2回、家族会を開催しており、同時に運営推進会議に参加をもらっている。また、クリスマス・忘年会では、利用者、家族がともに食事を楽しめるよう支援している。面会時は、「面会時何でも連絡帳」に意見・要望を記載してもらえよう勤めており、出された意見は運営やサービスの向上に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から朝礼、職場会議時、又は個々のスタッフに聴き取りを行い、より良い運営ができるように努めている。	管理者は、必要時や随時に個人面談し、職員の間関係や業務の遂行状況を把握して働きやすく、風通しの良い職場環境を心がけているため離職も少ない。グループホーム職員に対する福利厚生施設として「カフェ」があり、毎月自由に職員が参加し同業者の交流や情報交換の場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修参加や資格取得に向けて勤務の調整などを行い、自主的にできるように支援している。法人では、福利厚生により、職員の食事会などあり、余暇時間に気分転換し、リフレッシュを促す機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々の経験や資格から、スキルアップを図り各研修の参加や資格取得ができる環境を整えるよに努めている。受講後は職場会議の中でフィードバックして全職員の周知を促している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人の他事業所との交流や、情報交換を目的に食事会の開催や、地域の中で他福祉施設との交流を行いネットワークづくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の相談から、始まり、先ず、本人、家族の意向を困り事、要望きちんと伺うこと、又、支援者として、具体的な介護計画を示し安心して過ごせるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前から、事前に家族との相談を行い、信頼関係を得られるように傾聴し、家族に寄り添えることから開始している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の話に入居前から傾聴することで、安心感を持ってもらい、本人、家族が最も必要としている支援を把握できるようにしており、ニーズによっては、他サービスの提案も実施している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の社会的背景を理解し興味あること、特技、趣味を活かしたサービスを提案し、日常生活の中で個々できる段階を維持できるように、低下させない支援に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など、本人の様子をきちんと伝えて、家族の折々の心情を汲み取ることができるようにしており、毎月「暮らしの日記」を発行して、毎日の様子を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの、知人、友人からの電話を取り持ったり、面会のお誘いをしたり、これまでの人間関係が途切れないように、又面会時は、居室でゆっくり談話できるように配慮している。	電話、手紙、葉書などを通じて交流したり、自宅訪問や墓参り、理美容院に行っている。また、誕生日プレゼントとして本人の行きつけや希望の場所に行き、食事やショッピングなどを楽しめるよう支援している。友人やかつての部下などの面会もあり、ゆっくりくつろげるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、お茶や、レクリエーションを通じて、スタッフが調整役となり、お互いの会話を取り持ったりして利用者同士が関わり合いがもてるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退居時もこれまで同様に相談を頂けることを説明し、当方からも訪問や、電話で、状況確認をしてフォローできるように実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の日々の表情、言動から、その心情をくみ取れるように声かけを充分に行い、折々ご家族の立場からも本人の様子を伺いその思いを把握できるように努めている	身体機能や認知機能の低下などにより、発語がほとんどない利用者もいるが、瞬きや表情から思いを汲み取ったり、家族と情報を共有して本人の思いを把握し、本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の収集できた情報も含めて、ご本人ご家族の会話から得た情報をもとに、スタッフ間での情報共有を密に行い、周知できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を詳細に確認を行い個々の利用者が、現在、どのような状況であるのかを把握して、現在、どのような対応が必要かを検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりがより良いサービスを受けられるように本人を含めた、関係者と協議してそれぞれの意見、意向を反映し現状に即した介護計画書を作成、モニタリングを通じて変化に対応した計画書となるように目指している。	利用者が日々の暮らしを自分らしく送ることができるようカンファレンスや担当者会議などで検討し、目標やサービス内容、ケアの方向性などの情報を共有するとともに、定期的な評価や見直しを行い、家族にも分かりやすく説明して自立に資する計画になるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日のバイタルサインのチェック、全身状態の把握に努めており、個別的に記録している。情報は共有されており、計画書に反映されることで、より良い介護が、実践できるように努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族との会話、各々の意向をきちんと把握して意見交換を行い、個々の利用者に対して柔軟に対応できるように支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>町内会、民生委員、長寿あんしん相談センター、消防署の各々の関係者と協議、意見交換を行い、協働して、利用者が地域の中で安心して楽しく暮らせるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族が希望される受診先を重視して決定、専門医受診の場合はご家族の同行が必要であるが、不可能な場合はスタッフが同行し、情報提供を実施している。</p>	<p>協力医療機関への外来受診や他科受診、24時間医療支援体制がある。また家族同行受診の場合は、「健康情報提供書」により、情報提供したり、受診に職員が同席するなどして適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	健康状態を把握するため、バイタルサインチェック、全身状態の観察を行い、看護師に気づき等報告を行い、異常の早期発見に努め看護師は医療機関との連携を取り、情報提供を随時実施している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時には、介護、看護サマリーを提出して、日頃からの健康状態及び精神行動面に於いても情報提供を行い、病棟関係者Dr、Hp地域連携室等と情報交換を実施し、早期の退院に向けてアプローチしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居時より、重度化した場合の対応について、ホームで出来ること、できないことを明確に説明して、同意を得ており、医療機関との連携をとりながら、なるべく、ホームでの生活が継続できるように支援をしている。	本人、家族とは早い段階からケアの方向性について話し合い、方針を共有し、医療機関や施設などを紹介するよう支援する方針である。状況を踏まえ柔軟に取り組んでいるところではあるが、管理者は、「事前協定書」の見直しを検討したいと考えている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	定期的に繰り返し、全スタッフが勉強会等で緊急時マニュアルを理解できるように学習し、急変時事故発生時等は緊急時連絡と対応が適確にできるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、昼間・夜間想定、地震、消防訓練を実施しており、地域住民の参加支援を得ており、又「避難の日」を毎月1回実施し利用者、スタッフ共にシュミレーションをしている。H31年度より水防法避難訓練を実施予定</p>	<p>月1回の「避難の日」の自主訓練、防災点検（コンセント、備蓄、防災グッズなど）は日々実施している。地域は、防災意識が高く、防災連絡ネットワークを組織化している。地域の協力体制があり、津波による避難方法について課題を検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格の尊重を行い、人間としての尊厳、プライバシーを損ねないような配慮と工夫を全スタッフが意識できているかを検討し、意識向上を図っている。	年1回、プライバシー保護マニュアルやガイドラインを参考に内部研修を実施している。特に精神疾患を伴う認知症の進行がある方や職業的に言葉の使い方に配慮が必要な方には、誇りやプライバシーを損ねない言葉使いや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態に合わせた、自己決定できるような場面づくりの働きかけを行い、個々の意志、希望の表出を導き出せるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活上で基本的な日課と流れはある中、その日のご本人の体調、性格、精神面に於いて柔軟に対応できるように支援している。認知症の進行の方にも気持ちに寄り添えるよう目指している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	各々の利用者の好みをきちんと把握して、意向を訊きながら理美容の訪問サービスがうけられるように支援。毎朝の整容時をご本人に意向の確認している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りなどは、もやしの根取り、味見などを手伝ってもらったり、スタッフも一緒に食事をとりながら、会話ができるようにしており、音楽をかけてゆっくり楽しめる雰囲気配慮している。	両ユニットの職員同士が献立を話し合い地域のスーパーに買い出しに行くが、職員の気分転換や休憩も兼ねている。毎週木曜日は、「刺身の日」と決めている。外食は、ソーメン流しや個別の外食を楽しんでいる。また、芋饅頭、ゼリーなどの手作りおやつ作りを楽しんだり、差し入れや菜園の野菜を料理に活用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量、飲水量のチェックを実施しており、又献立等により嗜好の把握を行い、残食の内容の確認等を行って形態を変えたりと工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、理念にもあり、毎食後の声かけ誘導を行い、仕上げ確認を重視している。義歯の管理も定期的に洗浄を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをきちんと把握して、働きかけの必要な方には、声かけ誘導を行いきれない部分での排泄介助を実施しており、失敗の場合も、プライドを損ねない対応に配慮している。	排泄の自立支援については、事故の無いよう家族に十分に説明し、気づきのための離床センサーの活用などの事例を検討し、ポータブルトイレを併用し夜間の排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。ポータブルトイレは昼間、布を掛けるなどプライバシーに配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄の確認を行い、食事内容と、飲水量に配慮して工夫して、適度な運動量等働きかけている。腹部マッサージなども適宜実施している又、主治医相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は週3回となっているが、毎日、体調や気分に応じて、個々に応じた、入浴支援を実施しており、入浴拒否等にもタイミングを伺ったり、清拭などを適宜実施している。	本人の希望や必要性に応じて入浴支援を行っているが、基本的には、午前中に入浴してもらっている。家庭的なユニットバスであるが、滑り止めマットや手すりが設置してあり安全面に配慮されている。本人の希望や入浴方法を検討して入浴支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活リズムの中で体操、レクリエーションなどで身体を動かすこと、休息できる時間のバランスを考慮しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分で内服できない方は、スタッフが服薬介助を実施、手渡す場合にも、毎回、本人の名前を呼んで、3回は確認している。薬の効能、副作用など、個別的に確認し理解している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前からの情報収集から始まり、入居後は、ご本人との会話から特技、楽しみごとを随時訊きながら、日々の生活に活かせるように工夫し、気分転換できることを働きかけしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日課の中で、天候をみて近所の散歩支援を行う中で気分転換を促し、面会のご家族、友人の方にも無理のない状況で、同伴しての外出の機会を増やして頂いている。当月お誕生者には個別的に要望を伺いながら外出支援を実施している。	近隣の散歩や年間計画を立て、外出支援を実施している。管理者は、受診を兼ねてドライブしたり、季節の花見や港などに気分転換に行くなどしている。また、家族に協力をもらい個別の外出支援もしており、誕生日に行きたい場所に行き、好きなケーキを食べたり、会いたい人に会う機会を設けたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>各々の利用者に合せて、所持できる方には、少額でも所持して頂き、ホームでも小口預かり金があり本人と同伴して買い物に同行して頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者によっては、携帯電話を所持して頂き、随時、ご家族とのやり取りができています。他の方はご本人、ご家族の要望に応じてスタッフが仲介して、取り次いでいます。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>月1回のフラワーアレンジメントの日には、季節の花を入居者が自ら、器に付けて頂き、フローア居室に飾っている。随時、適温調整、採光、音にも配慮して居心地良く過ごせるように支援に努めている。</p>	<p>3階の介護付有料老人ホームと共有の玄関を入ると、1階、2階の2ユニットに分かれている。ユニット出入口や共有スペースには季節の生花が活けてあり、食堂には、長ソファが置かれており、利用者は食卓ではぬり絵をしたり、テレビ鑑賞するなどしている。台所からは職員が調理する様子が垣間見られるなど家庭的な雰囲気である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者に合せたテーブルでの席替えをしたり、配置を考慮しており、ダイニングには椅子、ソファを置いて、一人でもくつろげる雰囲気づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から、本人の意向を伺いつつ、ご家族と相談して居室には、今まで馴染んできた家具や物品などを配置して、本人が安心して居心地良く過ごせる雰囲気づくりに配慮している。	入所前の生活習慣や住環境を参考にして本人が居心地よく過ごせるよう家具を配置し愛用品を持ち込んでいる。コーヒーを好まれる方は好みのおやつを摂り居室でお茶タイムを楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面所は共有で各々、三箇所、配置しており、中央がデイルームとなっており、比較的、わかり易い状況がある。通路、居室の危険因子となる物は常時、排除して安全な環境づくりに努めている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない